

ウェブ地図「地理院地図」とは

「**地理院地図**」は、国土地理院が捉えた日本の国土の様子を発信するウェブ地図で、**正確な日本の姿**を表しています。

地理院地図の特長

(1) 最新の道路等が載っている！

高速道路や国道等を供用開始日に地図に反映

(2) 緯度・経度に加え、標高が分かる！

断面図作成機能で避難経路の傾斜を確認できる
色別標高図作成機能で0m地帯等の地元の詳細な高低差がわかる

(3) 防災地理情報が載っている！

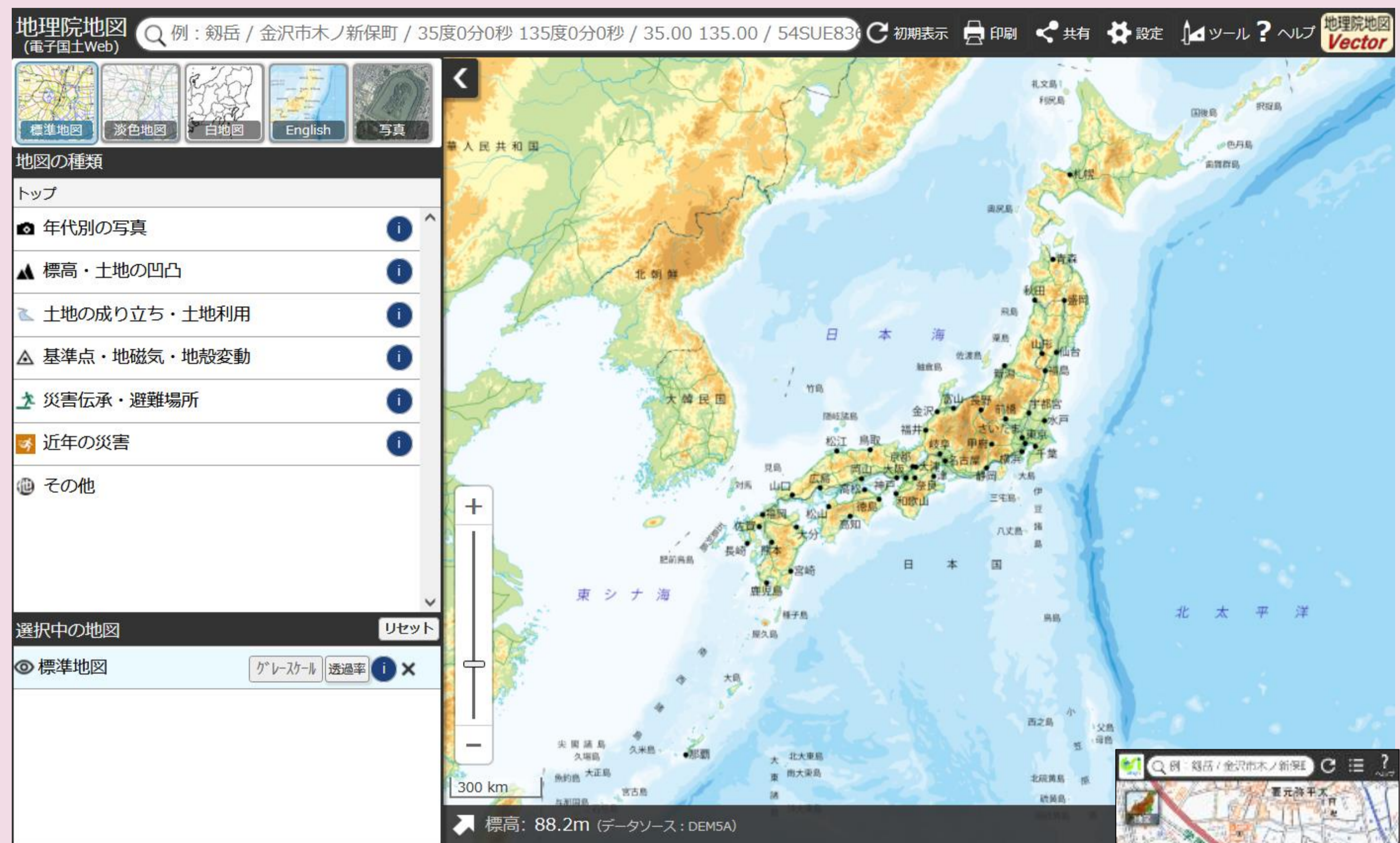
明治期の低湿地データ等の災害リスク情報を含む防災に役立つ多数の地図や写真が見られる
「自然災害伝承碑情報」が見られる

(4) 地域の防災力強化に有効な情報がある！

地元の指定緊急避難場所がわかる
道の駅等の防災面で有効な施設情報がわかる

(5) 被災前後の写真を比較できる！

2画面表示で被災状況が視覚的にわかる



パソコンや
スマホから
アクセス！



<https://maps.gsi.go.jp/>

地理院地図で閲覧できる地図や写真

全て「地理院地図」で見ることができます。

【国土の基本情報】

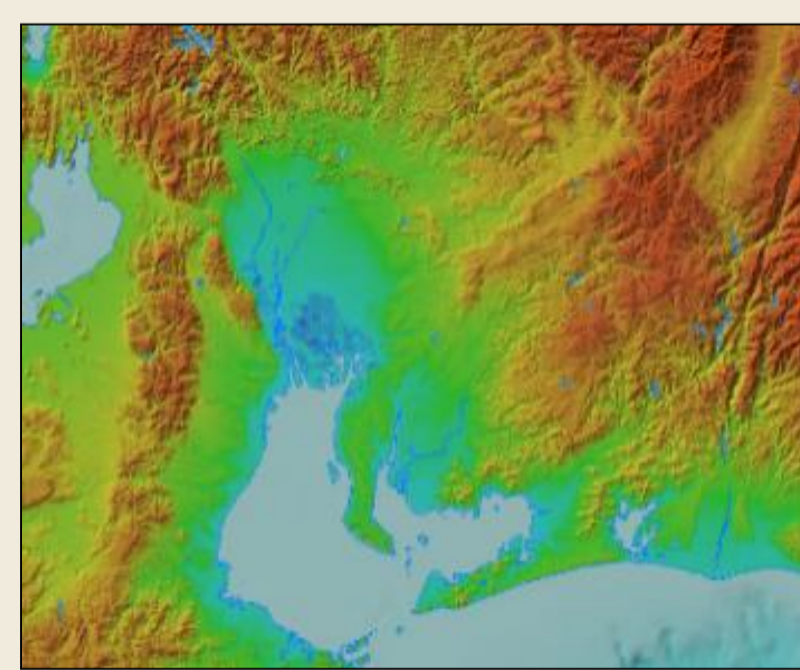
地形図



写真

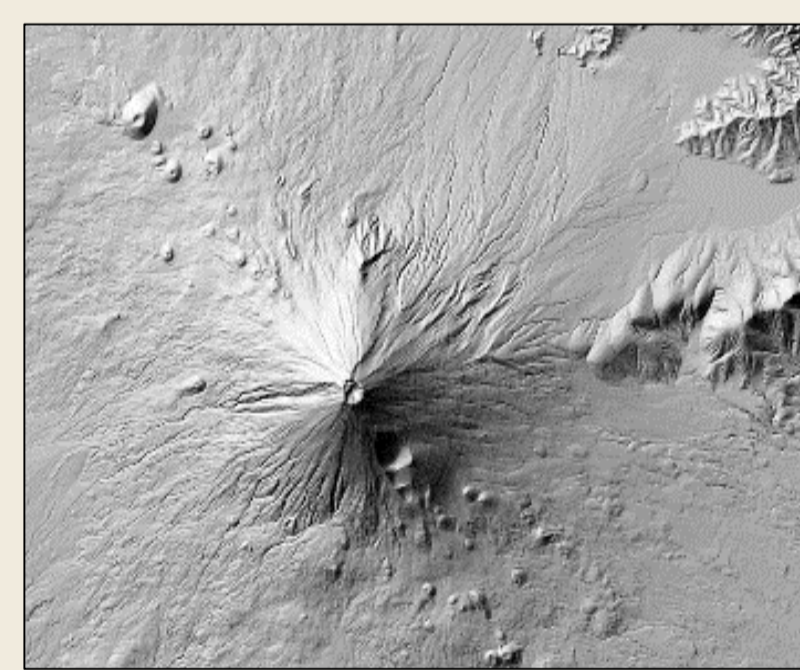


色別標高図

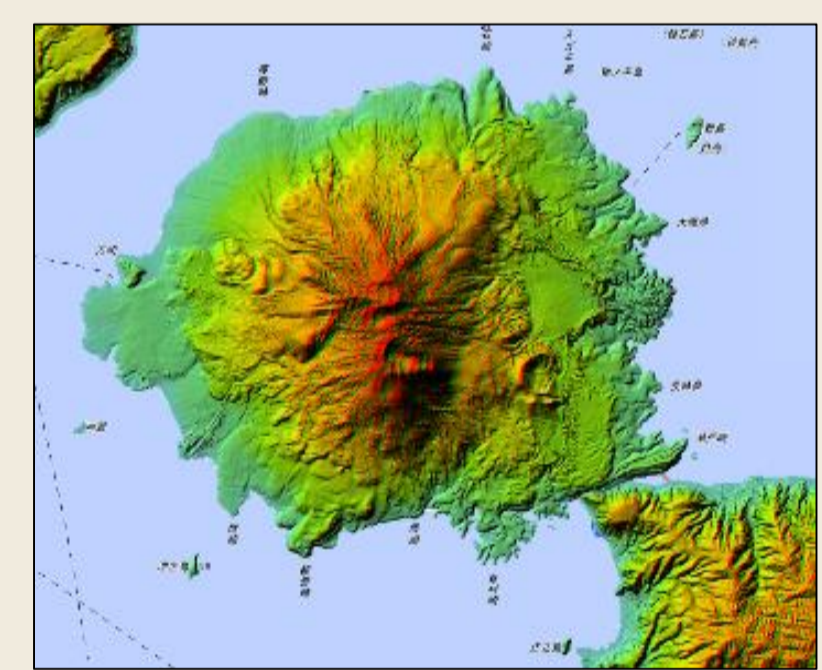


【国土の地形】

陰影起伏図



アナグリフ※

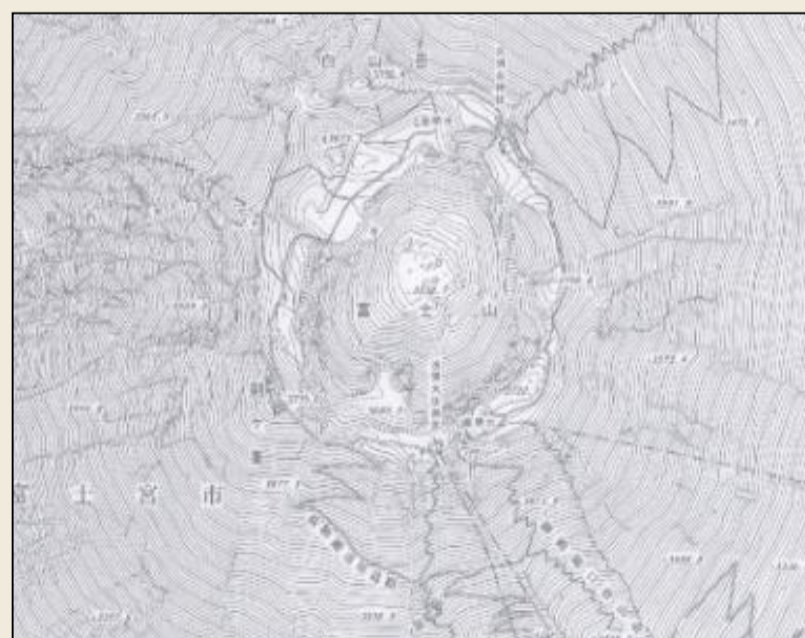


※アナグリフとは、左目に赤、右目に青のフィルムを貼ったメガネを通して見ると立体的に見える画像です。

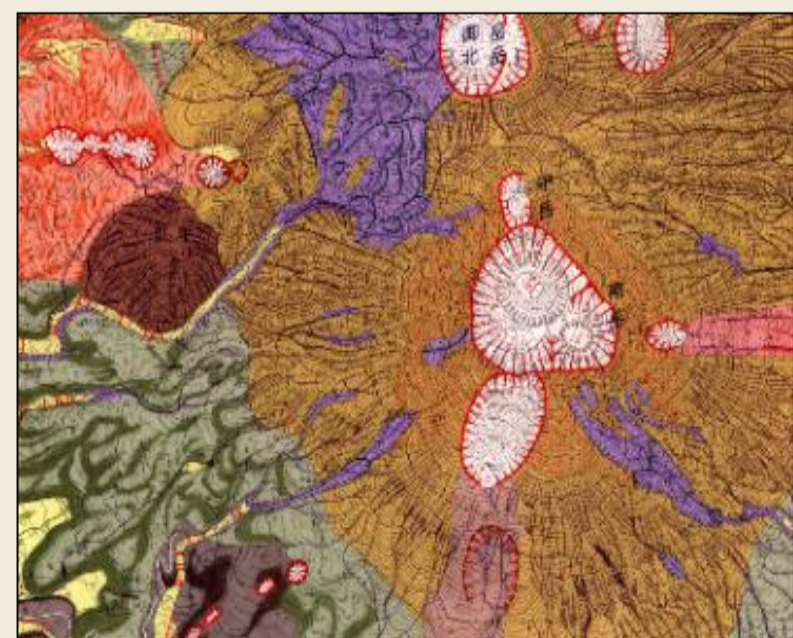
全国

【火山関連】

火山基本図

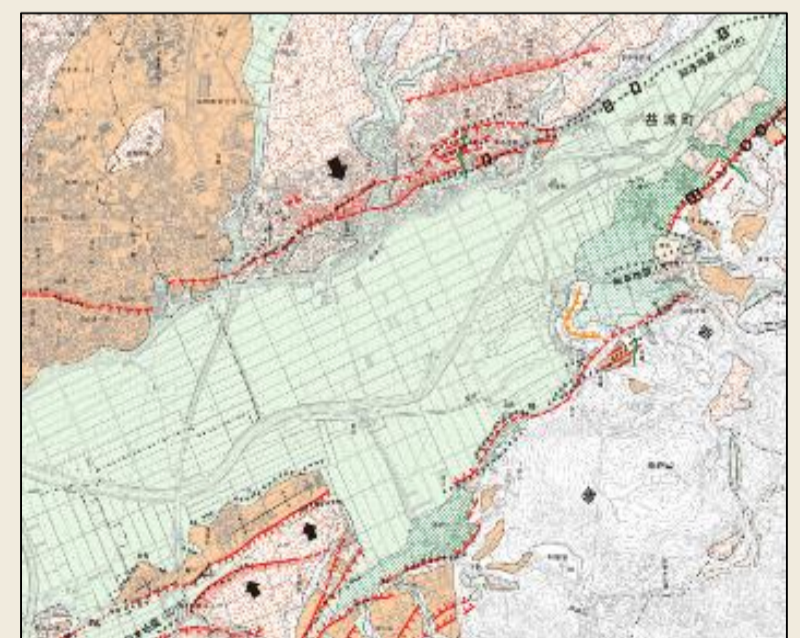


火山土地条件図



【地震関連】

活断層図



【水害関連】

土地条件図



治水地形分類図



地域限定

【過去の湿地分布】 明治期の低湿地



【土地の成り立ちと自然災害リスク】 地形分類



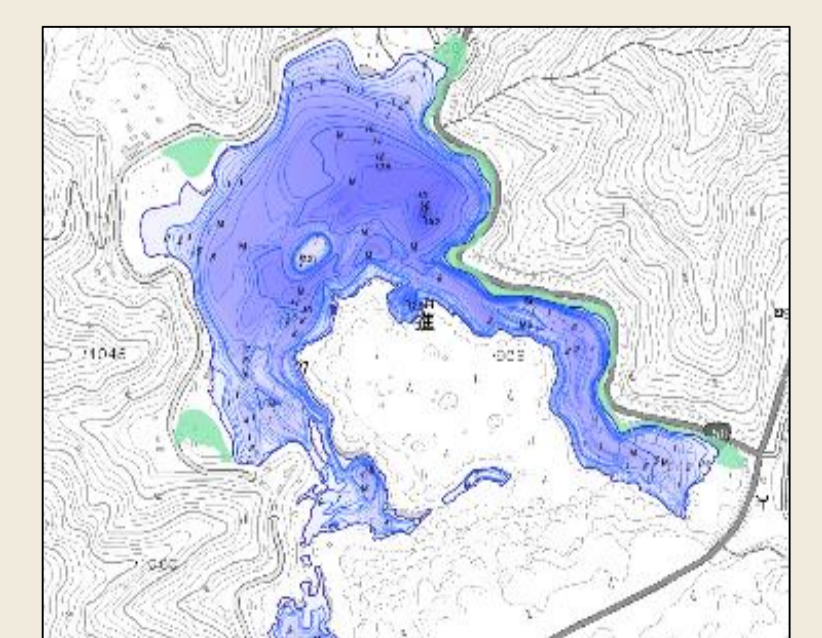
【災害履歴】 自然災害伝承碑



【命を守るために避難する場所】 指定緊急避難場所



【湖沼の地形】 湖沼図



防災に役立つ！ ウェブ地図「地理院地図」

災害への備え

浸水の危険性を把握

小さな高低差もわかる地図を作ることができ、浸水危険性の把握に活用できます。

操作手順：「地図」ボタン

- 「標高・土地の凹凸」
- 「自分で作る色別標高図」



編集前

自分で作る色別標高図

階層に並べる

-5	青	+
5 - 10	水色	+
10 - 50	浅青	+
50 - 100	黄緑	+
100 - 500	黄	+
500 - 1500	赤	+
1500 -	赤	+

(単位:m)

グラデーション 陰影(日本周辺)

上記の内容で地図に反映

編集後

自分で作る色別標高図

階層に並べる

-16	青	+
16 - 18	水色	+
18 - 20	浅青	+
20 - 22	黄緑	+
22 - 24	黄	+
24 - 26	赤	+
26 - 28	赤	+

(単位:m)

グラデーション 陰影(日本周辺)

上記の内容で地図に反映

標高による色分けの段階や色設定、陰影などを設定して反映

標高16mより2mごとに配色を設定&陰影を追加した表示

避難経路を確認

避難経路の高低差を調べることができ、経路をシミュレーションできます。

操作手順：「地図」ボタン

- 「災害伝承・避難場所」
- 「指定緊急避難場所」
- 「ツール」
- 「断面図」



避難経路の例

経路に沿った断面図

出発地から300m付近で、勾配20%程度の坂道になる

出発地から100m過ぎで標高が10mに達する

地図上でクリックして経路を指定し、最終点で2回クリック

液状化リスクの把握

土地の変遷を見ることができ、液状化リスクが把握できます。

操作手順：「地図」ボタン

- 「土地の成り立ち・土地利用」
- 「明治期の低湿地」
- 「地図」ボタン
- 「年代別の写真」



明治期の低湿地

年代別の写真

明治期の水部(現在は住宅地)
↓
東日本大震災で液状化被害が発生

災害発生後

被災状況を面的に確認

災害前後の写真と比較することで、被災状況を面的に確認できます。

操作手順：「ツール」

- 「並べて比較」



北海道胆振東部地震
被災後
平成30年9月6日

被災前
平成23年

「地図」ボタン
→ 様々な地図や写真を選択可能

北海道厚真町吉野